

患者の訴えを聴取し疼痛コントロールに寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者からの相談を受け、疼痛コントロールを行うことで食事摂取量の増加など QOL の向上に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- ▶右下顎骨周囲の膿瘍疑いにて洗浄施行後の患者
食事摂取時に右耳内の疼痛強く、食事摂取困難であるとの訴えあり

K さん



K さんご自身も仰っていたように、カルテの記録でも最近では食事が 3 割～5 割しか摂れていないな。食前に痛み止めを服用できれば食事が摂りやすくなるかもしれない。



薬剤師

K さんですが、食事の際の右耳の疼痛が強く、食事があまり摂れていないようです。食前に痛み止めを服用するのはどうでしょうか？ NSAIDs を空腹時に服用すると、消化性潰瘍などのリスクがあるので、アセトアミノフェンがいいと思います。



医師

早速、食前に処方してみましょう。
食事が摂れるようになるといいですね。



K さん

K さん、こんにちは。
最近、痛みはどうですか？食事は摂れていらっしゃいますか？



痛み止めを飲み始めてから、前よりたくさん食べられるようになりました。

食前にアセトアミノフェンを服用することで、食事量が 7～8 割まで増えた。
患者の訴えを聴取し、疼痛コントロールに寄与することで、QOL の向上に貢献できた。